



You'll never walk alone——

人生の嵐の中を進むとき  
どうか はっきり頭を上げて行って下さい  
暗闇を恐れなくて下さい  
嵐が過ぎ去れば 金色の空に  
雲雀のやさしい囀りが聞こえるでしょう  
風にも負けず 雨にも負けず  
たとえ あなたの夢が破れ去ったように思えるときでも  
心に希望を抱いて どんどん進んで下さい  
何故なら あなたは一人ぼっちではないのですから  
一人だけで歩いているのではないのですから

## 第109期卒団生のための フェアウェルコンサート



*Farewell Concert For The 109th Graduates  
15th February 2014*



# program

第一ステージ：在団生・卒団生合同ステージ

第二ステージ：在団生ステージ

第三ステージ：卒団生ステージ

卒団記念式典

2014年2月15日(土) 同志社大学寒梅館ハーディーホール



## 同志社グリークラブOB会理事長 芦田 直幸

卒団生のみなさん、同志社グリークラブご卒団おめでとうございます。

グリー浸けの4年間本当にお疲れ様でした。特に責任学年であった昨年は1回生がたくさん入部してくれて嬉しい半面、技術面をはじめクラブの運営上様々な困難もあったでしょうが、それを見事にはねのけて定期演奏会では素晴らしい合唱を聴かせてくれました。この最後の1年間の経験がみなさんを大きく成長させてくれたと思います。どうか同志社グリークラブの卒団生であることに誇りを持って各々の新しい道に進んでください。

さて、みなさんは今日からOB会の一員です。OB会はみなさんを大歓迎します。これからも同期との絆を大切に、我々と一緒に現役諸君を応援して参りましょう。



## 同志社グリークラブ顧問 岸 基史

卒団生の皆さん、同志社グリークラブのご卒業おめでとうございます。

皆さんは4年間の活動の中で、先輩達をよく支え、多くの後輩達を育て、活気溢れる同志社グリークラブを築かれました。多くの苦勞を乗り越え、活動を最後まで成し遂げられた皆さんに心から敬意を表します。

どうか皆さん、グリークラブでの経験を糧とし、同志社グリークラブ卒業生としての誇りを胸に勇気と自信を持って、それぞれの我が道を正々堂々と歩んで行ってください。皆さん一人一人が地の塩、世の光となられん事を願っております。



## 同志社グリークラブ技術顧問 伊東 恵司

4回生の皆さま、グリークラブの卒業おめでとうございます。現在の大学や学生を取り巻く環境の中、今年の4年生のグリーライフを考えると多くの困難な状況があったことが思い返されますし、その困難に打ち勝ちながら後輩を育て、一緒になって懸命に努力されたことに敬意を表します。

3団体(立教大学(男声・女声)、金城学院大学)を京都に迎えた夏のジョイントコンサート、惜しくも銀賞で留まった全日本合唱コンクールに向けてもしっかり取り組んでくれました。グリークラブの仲間とグリーライフが教えてくれたことは皆さんの一生の財産になり、人生を通して皆さんの支えとなってくれるでしょう。感謝を忘れず、自信を持ってそれぞれの道を進んでください。後輩の皆さんは卒業生の精神を引き継ぎ、自分たちなりの全力でこの状況を乗り越えてください。

卒業生、在学生の双方にとって今日が新しい第一歩、旅立ちの日になりますように。



前幹事長  
小渕 崇裕

この度は「第109期卒団生のためのフェアウェルコンサート」に御来場頂きまして、誠にありがとうございます。

109期生は本日をもって卒団します。4年間の大学生活の中心であったグリークラブを去ることに大きな達成感と深い寂しさを感じています。

109期生は、手前味噌ですが、困難にぶつかってもめげずに立ち向かってきた回生だと思えます。ここまでの道のりは決して平坦な物ではありませんでした。しかし熱く指導して下さいました先輩方、無茶なことでも頼もしくやり遂げてくれた後輩達、そして温かく応援して下さいました御家族の皆様のおかげで、4年間なんとかやり通すことができました。この場を借りて御礼申し上げます。

本日、我々は最後の舞台に立ちます。この舞台がそれぞれの道を歩み始める我々の門出を祝うものになること、そして次代に向けての最後の生き様を見せる場となるよう、精一杯歌います。最後までお楽しみ下さい。



幹事長  
小林 聖

本日は、「第109期卒団生のためのフェアウェルコンサート」にご来場頂き、誠にありがとうございます。この度の演奏

会をもって、4回生の皆様はご卒団されます。

先輩方と過ごした日々を振り返ってみると、たくさんのことが思い出されます。四連、コンクール、定期演奏会…。グリーライフは、決して楽しいことばかりではありません。目に見えない感動を追い求め、必死になって、時には苦しい思いをしながら、仲間と共に歩いていくものです。どんな時でも常に笑顔で、行事一つ一つを見事に乗り越えていく先輩方の姿は私達にとって憧れであり、誇りでした。

今年は同志社グリークラブが創部110周年を迎える節目の年です。2014年を同志社グリークラブ飛躍の年にできるよう全力でぶつかっていきます。私たちの活躍に、どうぞご期待下さい。



第81代学生指揮者  
長谷川 裕也

グリークラブは厳しい部だとよく言われます。グリーが「厳しい」と言われる所以は何なのでしょう。そのひとつの回答

として、私は音楽に対するストイックさがあると思います。我々は歴史ある団であるとはいえアマチュア集団です。音楽経験のないものたちが最高の音楽を生み出すために必死に練習する、その姿勢が「厳しい」という評価を受けるのでしょう。私は、クラブを「俱に楽しむ部」だと信じて指揮者を務めてきましたが、練習は楽しいだけではありませんでした。苦しいことも多い。それだけに演奏会が成功した後の喜びはひとしおです。しかし、時に自問することもあります。もっと努力できたのかもしれない、もっと良い演奏ができたのかもしれない。

聴衆の満足と自分たちの満足が両方存在する「最大公倍数」の演奏。これは存在しない値ですが、同志社グリーはいつまでもそれを追い求めるクラブであってほしいと願っています。



第82代学生指揮者  
安村 眞也

卒団生の皆様、ご卒団おめでとうございます。入団して3年間、私は先輩たちの背中を見て、同志社グリークラブの「グリーメン」

として成長することができました。

先輩と過ごした3年間は、私のグリーライフの中に大きく残っています。私自身、入団してから先輩方に沢山ご迷惑をおかけしてきました。私が悩みを打ち明けるたびに、先輩は時に厳しく、時に優しく、グリーを続けていく上で大切で的確なアドバイスを下さいました。

大きな変化を迎えている今のグリークラブで、その変化の真っ只中にあった4年間を過ごしてきた先輩たちは私たちに沢山のものを与えてくださいました。私たちは、先輩たちのご活躍に恥じないグリークラブを作り上げていきます。第109期生の先輩方の、今後ますますのご活躍、ご健勝を祈っています。

## Top Tenor 長谷川 裕也 (法)



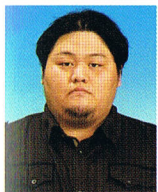
このクラブは私に多くのことを与えてくれました。

努力・根性・筋トレ、素晴らしい友人たち、先輩方・後輩たちとののであり。

「さようならは明日への声、  
さようならは交わしあう声」

さようなら、みんな。いつかまた会う日まで。

## Top Tenor 小椋 洋介 (法)



この場では、伝えたいこと全てを伝えきることはできません。ですから、後輩の皆さんへ。

「人生山あり谷あり」という言葉があります。これは、山は幸福の絶頂であり、谷は不幸のどん底に見られるかもしれません。し

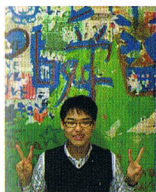
かし、登るに易い山などはなく、また底なしの谷などありません。

山頂から見下ろす景色には心が洗われるでしょう。同じように、谷底から空を見上げれば、心に勇気が湧いてきます。谷底は絶望ではなく、希望の始まりです。

そして今、この山頂からの一歩は、この山頂から見た素晴らしい景色を誰かに伝えるための、新しい希望の一歩です。

楽しくても、苦しくても、彩のある景色に。5年後、10年後…、何年経っても色褪せない豊かな景色を。

## Second Tenor 松本 瞬 (法)



本日、私は同志社グリークラブを卒団します。

私は、小学4年のとき合唱と出会って以来、ずっと歌に魅了され続けてきた。しかし、大好きな歌にも苦難があった。一体、何が苦しかったのだろうか。歌を歌うために欠かせない練習。それが、普段は優しい人までも魔物へと変貌させてしまう隠れた力を持っていたからだ。高度な芸術性を追求するあまり、特に指導者は我を忘れてしまうのかもしれない。

ない。

私がパートリーダーとして、そんな日々付きの練習で第一に心掛けてきたことは、単なる技術だけではなく、歌や音楽自体が持つ素晴らしさを伝えるということ。そうすれば、メンバーが高度な芸術性を養いながらも生き生きと歌ってくれると信じていた。私がどれだけその役割を果たせたかは分からないが、結果的に歌が再び大好きになった。

本日の演奏では、人間が持って生まれた楽器で奏でる音の力の偉大さを、少しでも皆様を感じていただければ幸いです。

## Second Tenor 外山 英寿 (理工)



挨拶文としてこの場を借りて後輩たちへと先輩からのメッセージを送らせて頂きたいと思う。

グリークラブの四年間は決して楽しいことばかりではなく、辛く、時には立ち止まってしまうようになることもあるだろう。そういう時はゆっくりでもいいから進んでいって欲しい。諦めなければきっと辿り着けるから。忘れないで欲しい。君たちには仲間がいることを。

そして君たちがいつか卒団する日に気付いて欲しい。君たちが歩いてきた道の途中に、幾つもの幸せがあったことを――。

## Baritone 堀角 優一 (理工)



私はグリーの4年間で多くのことを学びました。入部のきっかけは、新歓のデモ演奏で斎太郎節を聴いて感動したからでした。正直、合唱部がこんなにストイックで各曲に対してここまで真摯に向き合っていく部活とは思っていませんでした。しかし、このストイックさがあるのが同グリーであると強く感じます。ただ演奏をこなすのではなく、各曲に願いを込めて歌えるクラブなのです。更に、かけがえのない友とも巡り会え、依頼演奏等を通じて様々な価値観を持った方とも出会えました。だからこそ、自分の人間性をより深められたと感じています。大学で同グリーに所属し、合唱できたことを誇りに思います。

思っていました。しかし、このストイックさがあるのが同グリーであると強く感じます。ただ演奏をこなすのではなく、各曲に願いを込めて歌えるクラブなのです。更に、かけがえのない友とも巡り会え、依頼演奏等を通じて様々な価値観を持った方とも出会えました。だからこそ、自分の人間性をより深められたと感じています。大学で同グリーに所属し、合唱できたことを誇りに思います。

## Baritone 石川 明彦(法)



早いもので、入団してからあつという間に四年が過ぎ卒団を迎える時期となりました。顧みて正直に話してしまうと、この四年間は辛いこと苦しいことが盛りだくさんでした。それでもここまでこれたのは、歌うことを楽しめたから—あまりに単純で初歩的なことかもしれないですが—これに尽きると思います。四連やコンクール、定演にメサイア、その他にも盛りだくさんの演奏会で困難に出くわしたときも、この初心を思い起こすことでなんとか乗り越えてこれたのです。在団生のみなさんは、ぼく以上に歌うことを楽しみ、愛していらっしゃるかと確信しております。どうか、新しいグリーンメンに歌への熱い想いを伝えていただけますようお願いいたします。

## Baritone 市川 耀(理工)



グリークラブを続けることは大変だったが、4年間続けてこれてよかったと思う。

グリーでは辛いことや苦しいことがたくさんあり、良い意味でも悪い意味でも通常の大学生活では体験できないような経験を何度もすることが出来た。無茶なタスクも日常茶飯事で、また迷惑をかけたことも多々あった。ただ、そのような辛い状況もあったからこそ、否が応でも色々なことに挑戦することになり、その結果学ぶことが出来た。大学入学当時と比べると大きく成長が出来たように感じる。

沢山の人の支えがあり、ここまで続けることができた。同回生を中心としたグリーンメンや家族をはじめとした私を支えてくれた多くの人に感謝したい。ありがとう。

## Baritone 小松 佑史(理工)



グリークラブの一員として活動して一番良かったことは、野心に満ちた個人に出会えたということだ。熱い情熱をもち、研鑽努力をする沢山の仲間に出会ったことを誇りに思っている。苦難、忍耐、練達、希望、これら感情の波に採まれた四年間はとても短く感じられた。

私は今、喜びに満ちてグリークラブを卒団する。ありがとう、グリークラブ、ありがとう、田辺の大地、

ありがとう、新島精神。これから、別の環境で生きていこう。

For God, For Doshisha, and Brotherhood!

## Baritone 奈須 浩泰(理工)



私は入学当初、中学・高校時代にやっていた吹奏楽を続けようとし、最初は応援団に所属していました。

しかしそこでの理想との違いに悩み、本当に何がやりたいのかと考えた時、新歓の時期に誘われたグリークラブを思い出したのです。

飛び込んだグリークラブは全くの未知の世界。なかなか合唱を理解できず、練習に耐えられずに逃げ出したこともありました。しかし、無事、このフェアウェルコンサートまで続けることができたのは、この同志社グリークラブだったからだと思います。

今は分からないグリーンメンもいるかもしれませんが。しかし必ずきっと分かる日が来ます。在団生はこれからもグリーンメンであり続けてください。

私はこのクラブで4年間過ごせたことを誇りに思います。今まで支えてくださった皆様に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

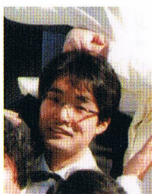
## Baritone 高田 秀平(法)



- ㊦ ういうわけか
- ㊧ たを歌う羽目になり
- ㊨ 苦八苦しなから
- ㊩ ㊦ 二無二に頑張ってきた4年間でした。
- ㊪ ㊦ 直に練習してきたつもりだけど

- ㊫ ㊦ ドして上手に歌うことができなかったし、
- ㊬ るしいことやつらいこともあったけど
- ㊭ ッキーでした、この部活と素晴らしい仲間に出会えて…。
- ㊮ 活でお世話になった皆様今までありがとうございました!

## Bass 荒木 泰人(法)



グリークラブへの思いは言葉をいくら重ねても上手く伝えることが出来そうにありません。

ですから、感謝のことばを一言だけ。4年間本当にありがとうございました。御座いました。

## Bass 江川 裕和(経済)



私もついに卒団と言う時を迎えました。

今までお世話になった全ての方々、私の大学生活を支えてくれた両親に感謝を申し上げます。ありがとうございます。

愛と涙と ほほえみに溢れ  
いま思えば 楽しい思い出を  
君に告げよう 迷わずに行くことを  
君の心の決めたままに  
私には愛する歌があるから  
信じたこの道を 私は行きたい  
すべては心の決めたままに  
(マイ・ウェイより 詞:中島淳)

## Bass 小淵 崇裕(法)



うつした空の 青さのように  
澄もう と苦しむ  
小さなころ

うつした空の 高さのままに  
在ろう と苦しむ  
小さなころ

(「水のいのち」より、「水たまり」)

理想を求めて苦しむグリーンメンに幸あれ。その願いが成就しますように。奔放な学生生活を見守ってくれた両親に感謝しつつここに記す。

## Bass 松井 充基(文)



「もう終わりなのか…」というのがこの四年間を振り返っての自分の第一声である。

初めてグリークラブの演奏を聴いたあの日を思い出す。それまで男声合唱なんて欠片も知らなかった自分と

て、男声特有の雄々しさ、荒々しさは非常に衝撃的で、それらを奏でる先輩達を見て、自分もあのようになりたいと感じた。

あれから四年。思い返しても辛いことの方が遥かに多かったが、このクラブでの経験が今の自分を支えてくれている。名残惜しいが、このような素晴らしく充実した日々を送らせてもらって、自分は幸せだった。百年以上の長い歴史のある同志社グリークラブに四年間関わることが出来て自分は誇りに思う。グリークラブ、本当にありがとう。

## Manager 廣瀬 薫(文)



長い伝統。実力は全国区。礼儀正しい。それが3年前の北海道での依頼演奏に来てくれた同グリのイメージだった。

昨年、まさにこのFWから、私自身がそんな同グリの女子

マネになった。

内側から同グリを見てみると、そんな印象は全くの逆。時々勉強を疎かにしてしまうくらいの合唱バカの集まり。女の子の扱いもわかってない……。

そんなグリーンメン達に笑わせてもらったり、時々戸惑ったりしながら、一年間はあっという間に過ぎて、今度は私が卒団する日を迎えた。

今まで同グリで関わってきた全ての方々、短い間でしたが本当にお世話になりました。

そして何より、一年間一緒に活動してきた109期生。皆と一緒に本当に楽しかったです。

どうもありがとうございました!!